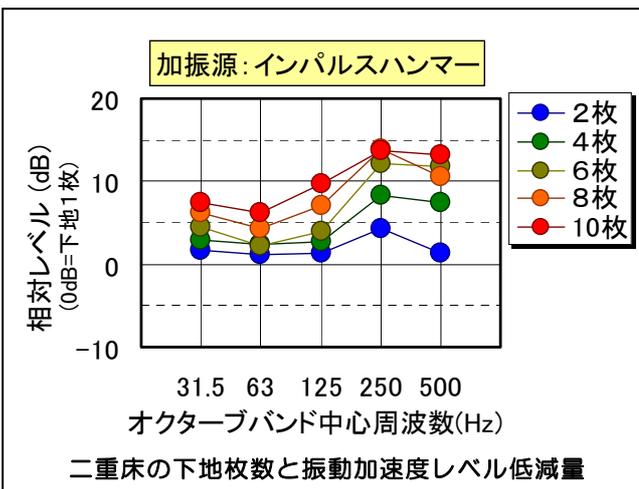


内装材による固体伝搬音対策技術に関する実験的検討

藤橋 克己・塩田 寿美子

Experimental Study on Structure-Borne Sound Control Technology Using Interior Finishing Materials

Katsumi FUJIIHASHI, Sumiko SHIOTA



研究の目的

集合住宅のリニューアル工事で一般的に用いられる内装材は、中空構造に伴う共振などによって建物内の伝搬音（固体伝搬音）を増幅させる場合がある。従って、リニューアル後の遮音性能を推定するためには、内装材の振動特性や音響放射特性などについて把握しておく必要がある。

そこで、RC造の箱型実験室にリニューアル工事で一般的に用いられている内装仕様の床、天井、壁を施工して、様々な内装材の遮音性能（振動低減効果）について実験的に検討した。

技術の説明

集合住宅の固体伝搬音を低減するための内装材仕様を実験データに基づいて選定できる。

主な結論

一般的な材料を組み合わせた内装材の対策仕様は、一般的な仕様に対して最大で10～15dB程度の振動低減効果が認められた。